

平成28年1月 岡山市教育委員会定例会 会議録

1 開催日	平成28年1月22日(火)		
2 開会及び閉会	開会	14時00分	
	閉会	14時43分	
3 出席委員	委員長	東 條 光 彦	
	委員	奥 津 晋	
	委員	塩 田 澄 子	
	委員	藤 原 佳 代 子	
	委員(教育長)	山 脇 健	
4 会議出席者			
職名	氏名	職名	氏名
教育次長	渡 辺 和 夫	教育次長	植 田 朋 哉
統括審議監(企画調整担当)	佐々木 辰 昭	審議監(学校教育担当)	天 野 和 弘
審議監(生涯学習担当)	山 口 啓 二	審議監(教育人事財務担当) (人事財務課長事務取扱)	石 井 雅 裕
教育企画総務課長	赤 野 政 治	指導課長	岡 林 敏 隆
事務局(教育企画総務課主査)	生 田 裕 宣	事務局(教育企画総務課指導 副主査)	林 俊 雄
5 議題及び結果			
第1号議案	岡山市教育委員会標準的な職に関する規程の制定について		原案可決
第2号議案	平成28年度の学力・学習状況調査への対応について		原案可決
6 教育長等の報告[平成27年12月12日(土)～平成28年1月8日(金)]			
事業報告なし 質問等なし			
7 議事の概要			
委員長	○ 1月の岡山市教育委員会定例会を開催する。 本日は、傍聴希望の方が2人おられる。入っていただいてよいか。		
全委員	○ 〈承認〉		
委員長	○ 日程第1。会期について本日1日限りとしてよいか。		
全委員	○ 〈承認〉		

<p>委員長 委員長 委員長 委員長 人事財務課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日程第2。12月の定例会の議事録に問題がなければ署名をお願いする。 ○ 〈承認〉 ○ 日程第3。事業報告は特にないが、何か質問はないか。 (会議録6「教育長等の報告」に記載) ○ 日程第4。第1号議案について説明願う。 ○ 第1号議案岡山市教育委員会標準的な職に関する規程の制定について説明する。資料の4ページをご覧ください。 このたび岡山市教育委員会標準的な職に関する規程を定めるのは、地方公務員法の一部改正に伴うものである。その改正の附則として、能力及び実績に基づく人事管理の徹底がある。これまでの勤務評定に代わり、新たに人事評価制度を導入し、これを採用や昇任等の任用であるとか給与、分限、その他の人事管理の基礎とすることが規定された。 人事評価の実施に当たっては、その評価の基準となる標準職務遂行能力を任命権者が定めることとされている。標準職務遂行能力とは、職制上の段階に応じて標準的な職務を遂行する上で発揮することが求められる能力である。この標準職務遂行能力を定めるにあたり、まずは各職制上の段階を端的に表すものとして標準的な職を定めることが任命権者に課せられている。 資料の5ページ、6ページの別表(第2条関係)をご覧ください。 改正後の地方公務員法では、標準的な職は職制上の段階及び職務種類ごとに定めてあるので、職務の種類は本市の給料表の種類ごとに、また職制上の段階は給料表の旧の職ごとに分類して、標準的な職はそれぞれの職制上の段階を端的にあらわすものとして定めて、一覧で示している。 なお、今回定める訓令は、県費負担教職員を除く一般職の職員を対象としているので、県費負担教職員を対象とした規定については、また本年3月中の制定を予定している。 説明は以上である。ご審議のほど、よろしく願う。
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地方公務員法の規定に基づいて人事評価上の基準を定めるに当たっての、職務の階層を定めるものだという説明だったと思う。 これに関して何か質問があるか。
<p>教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 確認だけであるが、この前も触れたかもしれないが、今現在無い職でも一応挙げておくということではいいか。例えば、助教諭は今いるのか。
<p>人事財務課長 教育長 人事財務課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育職2表の助教諭級であるが、助教諭は……。 ○ 幼稚園か、これは。 ○ 幼稚園である。幼稚園の助教諭は現在いない。ただ、将来を見据えてこういった職ができる可能性があるものについては載せている。
<p>委員長 人事財務課長 委員長 奥津委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 認定こども園の先生はどういう扱いになるのか。 ○ 市長部局の方で定めることになっている。 ○ 他に。 ○ この規程の対象となる職員の数は大体どれくらいになるのか。県費は除くと思うが。
<p>人事財務課長 奥津委員 人事財務課長 教育長 人事財務課長 教育長 人事財務課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ きちんとした数字ではないが、七、八百人程度である。 ○ 教育委員会だけでか。 ○ そのとおり。 ○ 七、八百でいいか。幼稚園が入ると思うが。 ○ 幼稚園も入る。あと市の職員と事務局職員も入る。 ○ もうちょっといるのかなという感じがするが。 ○ かなり減っている。

藤原委員	○ この標準的な職が定まったとして、その後、人事評価に関する事は同じ内容で評価されるのか。それとも職位によって違うのか。そのあたりを教えてください。
人事財務課長	○ この標準的職を定めた後、標準職務遂行能力というのも定めていくが、これは先ほどの職務の種類や職制上、段階ごとに全て定めていく。
藤原委員	○ 評価される部分が違うということか。
人事財務課長	○ そういことである。
藤原委員	○ そうでないちょっと困るなと思ったので質問した。わかった。
委員長	○ 私もよく内容を理解できてないと思うが、6ページには岡山市立高等学校教育職員の給与、これは具体的には後楽館の職員か。
人事財務課長	○ そのとおり。
委員長	○ それで、前のページの教育職（1）というのは、これは後楽館中学ではなくて。
人事財務課長	○ 教育職（1）の職務については、実習教諭の二人だけになる。
委員長	○ だから具体的に言うと助教諭級というところなのか。 これはこの後、具体的に評価の今後というか、それを定めていくと思うが、それに関しては教育機関の方と合わせて同じようなタイミングで決めていくということになるのか。
人事財務課長	○ 県費負担教職員の方については、今年度中に標準的な評価をされるのだが、結局評価については来年度実施ということである。
委員長	○ 評価の基準は来年につくるのか。
人事財務課長	○ 今年度中につくっていく。
委員長	○ 今年度中に県費負担の先生もか。
統括審議監	○ 県費負担教職員に関しては、今のところ人事は市にあるが、条例上は県の例によるという市の条例を持っている。県の方がどう決めるかというのを待って、市の方が策定するということになる。実態は市に人事権があるが、県費負担教職員の人事とか給与に関しては県の例に従って市が行うという条例を持っているので、それを今県が協議をして、それが決まり次第、市でその内容と同じものを決めていくということになる。ちょっとタイムラグがある。
委員長	○ それが3月ぐらいまでにと話なので。
統括審議監	○ そのとおり。
委員長	○ 岡山市の分も時を移さずやるということか。
統括審議監	○ もう一年後は、今度は完全に市に移管するので、そこでもう一回整備が必要になると思う。
委員長	○ わかった。
委員長	○ これは段階を定めるということで、内容の話ではないということである。
委員長	○ それでは、他にご質問、ご意見がないようであるので、第1号議案は原案どおり可決してよろしいか。
全委員	○ 〈承認〉
委員長	○ それでは、第1号議案を原案どおり可決する。 引き続いて、第2号議案を指導課から説明をお願いする。
指導課長	○ 第2号議案は平成28年度の学力・学習状況調査の対応についてお諮りをするものである。 平成28年度の全国と岡山県の学力調査である。 資料の8ページをご覧ください。 調査の概要についてお示しをしている。実施日は、両方とも4月19日火曜日である。対象は今年度と同様小学6年生、中学3年生と1年生ということである。 調査内容については、全国は本年度理科があったが、理科が来年度は外れる。岡山県については、国語、社会、数学、理科の4教科ということである。

今年度との変更点については、9ページ以降に実施要領をつけているが、変更点が3つある。

1点目は、調査結果を入学者選抜に用いることはできないということ。2点目が、経年変化の分析調査を実施するということが追加をされたということ。これは市内の小・中学校抽出で行うという通知が来ている。それから、3点目は法改正に伴って義務教育学校を追加をしているということ。それから、配慮を要する児童生徒へということで、ルビ振りの問題用紙の使用範囲を拡大するという、以上の3点が実施要領の変更点である。

岡山市として参加する狙いについてあげさせていただいている。

全国調査については、岡山市の児童生徒の学力・学習状況を把握、分析、そしてそれを教育施策に反映させるということが1点、それから、学校における児童生徒への教育指導の充実、学習状況の改善に役立てる、これが2点目。そして、3点目が児童生徒一人一人の学力・学習状況の把握、改善ということである。

県の調査については、以上3点に加えて、中学校入学段階で行うので、岡山型一貫教育、小学校、中学校の段差をなくすということ。情報共有をして同じ方向で進めるということを追加をしている。

結果の示し方については、今年度同様、全国調査について学校別の公表シート、こういったものを予定している。

9ページ以降は全国及び岡山県の実施要領を添付しているので、ご確認いただきたい。

それでは、審議をよろしく願います。

委員長

- この件について、質問、意見があるか。

それでは、私から伺いたいですが、これは毎年やるかやらないかを決めるということになるが、一応参加の狙いがこのように書かれているが、これまで参加してどのようにそれが生きていたのかというか成果はどのように総括しているのか。

指導課長

- 各学校が学校別公表シートというものを作るようになっていて、課題を分析し、そして学校ごとの改善点を打ち立てて、それに基づいて研究を進めるというような、そういった作業が定着してきているというように私たちは捉えている。ただ、子どもの劇的な学力の向上と、目に見えて急激に上がっていくところまではいってはないが、先生方一人一人が授業づくりとか子どもたちを見ていこうというようなことは前以上に進んできていると認識している。

委員長

- もう一つ、こういうことやると、とかく順位づけをして、その順位がどうやこうやという話になって趣旨を履き違えた使われ方をすることがあると思うけれども、そういうことで学校側の不満はないか。

指導課長

- それがそういう雰囲気を学校が感じると、学校のモチベーションが下がるのは事実である。昨年度まで学校にいて、それをにおわされると元気がなくなるというか、やはり本来の趣旨はその狙いにある子どもたち一人一人の学力の向上、学習状況の改善、生活改善というところ、やはりそこを求めていかないといけないというように思っているので、議決いただけたらその狙いについては再度学校と共通理解しながら進めていきたいというように思っている。

委員長

- それは一番気にかかることであって、どうしてもメディアがそこを上げるため、実施者側はそういう意図がなくても、横からそういう話が入ってきてということもあって、どうなのかなという気がする。

もう一点、最後であるが、経年変化調査をやる、分析調査をやるということであるが、この内容をもう少し具体的に教えていただきたいと思う。

指導課長

- これは以前平成25年にやっている。そのときと似たような、同様の内容の問

	<p>題を使い、どの程度子どもたちの学力の状況が変化したかをつかむというものである。小・中学校1校ずつを抽出し、来年度の5月を中心に、学校が実施日を定めて実施をするもので、統一日のようなものはない。</p> <p>以上である。</p>
<p>委員長</p>	<p>○ 資料の17ページ、18ページあたりに若干書かれているが、同じ問題ではなくて似たような問題ということか。</p>
<p>指導課長</p>	<p>○ この問題については詳細はまだわかっていないが、平成25年度と比較できるような内容になると思っている。</p>
<p>委員長</p>	<p>○ 他の委員の方、いかがか。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ これについて以前、意見を言われた団体もある。結局それはこの調査自体の中止であるとか、そのことを文部科学省に言ってくれと、参加しないでくれとか、そういうような内容のものであったが、私自身そのときもお答えしたのは、特に岡山市が指導課長が先ほど言った狙いとしてのこの一番最後の一人一人へというところは、岡山市としてこれをつけ加えたという形である。国から示されるというのはその上2つ分だけである。岡山市はこれが大切であると、一人一人の学力や学習状況を把握して、それを改善に役立てていくと。子どもたち一人一人のもう少し自分のよいところ、さらに改善しないといけないところをしっかりとつかまえることが大切なんだという意味で、この一文を入れて狙いとして岡山市は加えるという形である。</p> <p>そういう子どもに焦点を当てるのが大切だ、そのための学力・学習調査なんだという捉え方だということをお話させていただいた。そういう意見がかつてあったということをお伝えしておきたいと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>○ 岡山の場合は学校がどうするかということもそうであるけれども、子ども個々の特徴、特性というか、それをつかまえて活用できるというメリットもあると考えているということである。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ そのために返し方もすごく、2年ほど前だったか、返し方自体を工夫をしたというか、子ども自身が比べることができるようにしてきたという経過があつて。</p>
<p>委員長</p>	<p>○ 返し方のことに関して、今のポイントと少し違うけれども、例年文部科学省に結果の公表というか、フィードバックを早くしてくれという要望を出していて、これは8月の末にもらっても実際使われるのは11月とか12月ぐらいからということになるので、できるだけ7月、1学期中ぐらいにもらって夏休み中に先生方がそれを見て、2学期から学校の運営に活用していただけるようなタイミングでくれということは前々から申し上げていることであつて、もし今年参加することになれば、そこは改めて要望していきたいと思っている。</p> <p>子どもの実態をきちんと把握して、客観的な根拠に基づいて指導していくことが必要なことではあろうと思っているので、いろいろなご意見もあるということは承知しているけれども、子どもに結果的には還元されるという趣旨であると思うので、私自身に関して言うと、やるからには活用してほしいと思っている点もある。</p> <p>どうでしょうか。</p>
<p>藤原委員</p>	<p>○ 一番懸念されるのは、この結果が優劣だけをつけるとか学校差がわかるとかというのは配慮が要ると思うし、一番全国的にそれが気になるころだとも思うけども、岡山が公表の形で工夫しているところで、ちょっと他の自治体からこれいいなと言われたというのを聞いたことがあるが、それはどういうことが少し工夫があると認められたのか。</p>
<p>指導課長</p>	<p>○ 私自身が実際他の方からそういうご指摘をいただいたという記憶はないけれども、実際に学校にいたときにつくったこともあるけれども、今の課題がこうで学</p>

<p>教育長</p>	<p>校としてこういうふうな改善を図ろうとしていくということをイメージしていくと、結果がよかったとか悪かったとかというのではなくて、改善策をはっきり示しているところが岡山市の特徴だろうと思っている。</p>
<p>藤原委員</p>	<p>○ もう一つ、多分さっきの一人一人のではないけれど、返し方の中で個人と全体の中で自分がどうだとかということをはかることができるような、個人がはかることができるような返し方をした。それを全体に見えるような格好ではなくて。</p> <p>○ 自分で自分のところは自覚できる。岡山県都市教育委員会教育長協議会か何かそういう話題が出たようなので、いい工夫だったんだろうなと思った。</p> <p>それで、ここ何回かしてきて、もうしなくてもいいのではないかという意見や続けた方がいいのではないかという意見の両方があると思うが、私自身は対象が変わってきているので続けた方がいいかな、悉皆でやることの意味があるかなという感じがしている。これを永久に続けるかどうかというのはまた考えないといけないけれども、例えば今の学力だけではなくて状況調査が見えてくるという、これだけダイナミックに全国でそれが見えてくるというのは、こういう形しかないかなと。それを例えば学校であるとか地域であるとか保護者であるとか、そういうところにおろしていけるというので子どもの教育へのかかわり方の見直しになりつつあるという気がする。まだ大きくこれがこういうふうに変ったというのはないかもしれないが、感覚的に保護者の方や地域の方が学力状況調査について重きを置いておられるかなと。それは多分学校が公表という形で紙ベースであるとかホームページであるとか、いろんな形で該当の生徒や児童の人だけではない返し方をしているからではないかなと思う。</p> <p>それからもう一つは、岡山の状況も全国もあまり変わらないだろうと思うのが、学力の2つこぶになっているところである。そこの下の部分に関してどうしたらいいか、このまま子どもたちを放っておくというのは絶対いけないと思う。形として見えてきたことで予算であるとか施策であるとか、そういうことに反映しつつあるというのは、大きいと思う。また今年は教育委員会制度が変わったので総合教育会議もスタートして、この学力のことを何回取り上げたか、相当だ。市長が自らその話題を取り入れてやろうとして、それを施策とか予算に生かそうとするのは、追い風という感じがしている。</p> <p>教育のことは教育でやればいいという意見もあるかもしれないけれども、やはり予算の伴うことは市全体の協力が要るのかな。その結果として学力、授業がわからないで困っているという子が減るとか、サポートの具体的なことが今以上に見え出すと、これはこの学力状況調査の成果として言えるのではないかなと思う。上の方の子ももちろん育てていかなければいけないけれども、今近々に急がれるのは底の層の子かなという感じがしている。</p>
<p>奥津委員</p>	<p>○ 小学校6年生について聞きたいが、このような形で3教科を1日でテストをするというような機会があるのか。</p>
<p>指導課長</p>	<p>○ これは余りないのではないかなと思う。2教科であるが、A問題、B問題と、1つにつき2つずつあるので、1時間目から4時間目までA、B、A、Bとやって、給食を食べて5時間目が質問紙という、課程をとっているのだから、小学生にとっては初めての体験に近いのだろうと思う。</p>
<p>奥津委員</p>	<p>○ この後、中学へ上がっていくとこういうことは増えていくわけであるが、これが初めてで入り口みたいな感じの位置づけになるのか。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ ほとんど小学校ではこのような機会はない。いわゆる中間テストや期末テストという形ではないものである。単元が終わったごと、題材が終わったごとのテストであるから、1日に1枚か2枚ぐらいのテストがあるかないかというような、全然ない日もあるし。</p>

<p>奥津委員 教育長 委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6年生になった早い段階でそういうのがあるよというふうになってきている。 ○ マークシートというやり方も初めてだろうと思う。 ○ マークで答えるのは中学生はいろいろあるかもしれないけど、小学生は戸惑わないのか。
<p>指導課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ これは、かなり戸惑うだろうと思う。中学3年生も初めてである。最初、番号と名前を書かせるのにかなり時間をかける。どこをこういうふう塗れというので、実際に黒板を使ってやってみて、全部点検したらやはり間違いが出てくるというような状況であるので、名前を書かせるところでまずは練習をさせて、それで本番に臨ませているというのが実態だと思う。
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ いざやるということになると、慣れない作業をさせたり、先生が気を配ったりしないといけないので、負担といえば負担があるということになる。 センター試験でもあれほど言っているのにマークミスの人があるので、後から間違えましたと言ってきてもどうにもならないが、小学生ではやはり間違いやすい戸惑うし、ちょっと緊張するだろうなと思う。テストをするということもそうであるし、いろんな手順に慣れないという負担感はあるんだろうなということはある。
<p>塩田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私も毎年悉皆でということここでやらないという選択肢はないのかなと思うが、やはり生徒の一人一人が自分の立ち位置を知るというのは大切なことで、全国の規模の中で例えば運動能力などでも毎年毎年やっている。そういったところで学力についてもそういうものを知るというのは重要なことかなと考えている。岡山市は中でも特に自分の状況がわかるような形で工夫をされて、結果を返されているというのがすごく評価できるのかなと思っている。 それと同時にであるけれども、一番下の参考のところに結果の返し方についてということで、1番目の改善プランについてはこれはやはり2年前に話をしたときには地域協働学校の中で学区の人たちにもその状況をわかっていたきたい、それで協力をいただきたいところからこういったものを学区の中で公表するというような形ではなかったかというふうに思う。またホームページに掲載している段階でも地域の方へ公表しているということになるかと思うので、対象を限らないでもう少し広く捉えていただきたいなということも思った。
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ちなみにホームページで今公開されているが、それは月にどのくらいの閲覧数があるのか。
<p>指導課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 閲覧数についてはカウントしていないので何とも言えないが、教育指導課のホームページからは見えるが、いろんな学校が工夫しておられる。例えば学校だよりといったところで校長のコメントがついて、結構量が膨大なので、あのシートは、そのポイントだけを出されているような学校とか、それをまた各学校のホームページに掲載しているとか、そういった資料を運営協議会、地域協働学校の運営協議会でお示しをしてお意見をいただくというふうな、そんな活動をしている学校は増えていると思う。
<p>藤原委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全然別の角度から、このテストがいいかどうかと言ったらいろいろな意見があると思うが、私がここ数年思うのはこのやり方で全国でやっているから、あるべき姿とかあるべきでない姿が見えてきたと思う。例えば、去年だったら某県の知事さんが学力の悪いところの学校を発表するとか、ある県の知事さんは入試にこれを使うとか、そういうちょっとゆがんだ考えが全国で出てくるとみんな是正する。教育というのはそういうものではないというのが全国津々浦々まで良識の方が広がるきっかけになっているかなと。だから、どの都道府県もいろいろな公表の仕方をして、優劣だけではなくて一人一人を見て、その子が社会人になったときに役立つような学力つけようという、いい方向に行く一つのきっかけになって

いるかなと。

何か極端な変な自治体が出てくると、みんなが反省するというのは、これはその県の人たちはちょっと気の毒だし、そういう人が上にいるのかといったらちょっと困ることはあると思うが、でもその結果是正されてきて、今回の実施要綱でもそういう入試には使わないとか少しずつ限定がかけられていけるというのは、あるべき学力はこういうことで、それは優劣をつけるだけのものではないというのが広がっているかなとちょっと安心するところはある。

それからもう一つ、岡山でいえば、私個人的にはこの白紙回答がこんなに多い岡山市だったというのがわかって、反省材料というか、中身がわからないのか気がないのか、その辺がいろいろ要素があると思うが、これも少し改善していけば岡山の子どもたちがもっと元気になれるかな、学力について自信が持てるかなという感じがしているので、ぜひこの4月は期待したいなという気がするが、どんな感じか。

- 見通しはということであるか。
- 期待したいと思う。
- 期待したい。
- 結局、この前の総合教育会議でもあったが、学校現場というのはなかなかすることはきっとやらないといけない、だからすべきことはやっていっている。ただし、それに対する評価がどの程度できているのかということが十分できているのかというようなことも話題になった。PDCAのCがきちっと本当にできているのかどうなのかというところになる。

だから、今藤原委員の言われたような、結局そのことによって次への改善というのはその評価だろうと思う。だから、そういうことをきちっとやっていくということがこれの狙いなんだということを、我々自身もそれから市全体もそれから学校現場も含めて、きちっと把握しながらやっていかないといけない。ただ点数の順位だ何だかんだというのに振り回されてしまうような形になったのでは、これと相反することをやってしまうのではないかなと思う。そういうためのものではなかったはずなので。

- 実際に学校現場での負担感、先生たちの負担感というのはどうなのか。かつてはかなりの負担を感じていたと思うが、いろいろ悉皆でやってきてどんなふうに変化されているのか。
- 実際どんなことがこれで伴ってくるかということ、1枚もなくすということは許されない。だから、問題を受領する、受領したということを指導課の方へ確認の連絡をしていただく。クラスごとのシートを仕分けをしていく。それで、教室へ持っていくだけのまた問題と解答用紙と仕切るというふうな、いろいろなセットがあるが、それをつくって監督の先生方へ1枚ずつ渡す。あとは教室へ持っていくとさっき指摘あったマークの仕方から名前とか番号とか、都道府県番号も書くので、その辺を丁寧に指導していくと。あとは粛々と時間割りに沿ってやっていくが、終わった後の点検がまた一手間かかる。順番の間違いはないか、全部そろっているか、マークが間違っていないかというあたりまでであるので、そのあたりは確かに余分な負担といえば負担にはなるのかもわからないが、実際に教室へ行っていただく方の負担感というのはやっぱり気の使いようのところ、それから授業の時間を1時間とるので、どうしても、それがうまく解消できないというか、連続しながらやっている中に突然入っていくものであるから、それに対して軌道修正するのにちょっと気を使うかなと、そんな状況はあると思う。主には教務主任には教頭がいろいろ仕分けをやるので、その方たちは毎年頭を抱えていると。

委員長
指導課長
藤原委員
教育長

塩田委員

指導課長

塩田委員	○ 実施のメリット、こういった狙いを持ってやっていくものに比べてその負担感はどうか。これがなければいいなというような気持ちが大きいのか、生徒たちのために頑張っているというのか。どんな感じなのかと思ったので。
指導課長	○ これもかなり定着をしてきているので、学校の中では、これは邪魔だなという認識はもうなくしているだろうと思うが、これに向けて頑張ろうというのは年度当初でもあり、学校をスタートさせるために結構労力を使うので、その部分はまだまだもう一つかなという感じはしている。
委員長	○ 何か我々のところでいうセンター試験のような感じで、一枚もずれは許されないみたいな感じでやっているということなので、非常に精度を高く保つように求められるので、そういう緊張感があるだろうと思うけれど、センター試験はもうずっとやっているの、うまくいかないこともあるが、それ自体が物すごく大変ということにはなかなかならずということはあるかもしれないが。
教育長	○ 今も言ったが、僕も現場にいるときに始まったが、今言った仕分けと集計と一枚一枚落ちがないか、順番になっているかどうかというのは私と教務主任がやって、教頭は別のこともあったりして、だから先生方はする当日の時間をどうしていくか、先ほどのようなこと。それから、気を使うのはそちらの方の今集計、そして分配する方が気を使っていたような気がする。
藤原委員	○ 多分運搬とかちゃんと取りに来てくれるかなといったりするの気を使う。ただ、テスト用紙がきちっとないといけないというのは定期考査でも一緒である。普通の定期考査でも一枚なくていいようなことには絶対ならないわけだから、それは学校は多分慣れていると思う。だけど、それがきちっと送られていって結果が来るまでというのは随分気は使うと思う。
委員長 教育長	○ それだけ気を使っているんで、なるべく早目に返す事ができるようにしたい。 ○ また岡山県都市教育委員会教育長協議会にもお願いをしながらというのもあるし、全国の組織もそういう思いは皆さん持たれているのではないかなと思う。いつだったか全国の指定都市は、あのときも話をした。
委員長	○ センター試験は先週やって、大体もうすぐ活用できるので、そんなに時間がかかる理由はちょっとわからないという気もするが。
教育長 委員長 教育長	○ だから、最初のデータだけでも先にもらえれば良い。 ○ 速報を早くもらえればいい。 ○ あとの細かい分析とか何かはあとでやっていけばいいが、早い段階である面の傾向性みたいなものを見たい。早い段階というのは一弾を返してもらって次の機会に第二弾が返ってくるとかしてほしい。
藤原委員 教育長 藤原委員	○ 自己採点はしているのか。 ○ 今は少し改良が進んできている。 ○ それなら、自己採点ですぐ自分の間違いがわかるようなことにはなる。ただ、比較とかそういうことはできない。8月・・・もうちょっと早くできそうな気はするけれど、できないのかな。
委員長 委員長 全委員 委員長	○ できると思う。そのためのマークだという気がする。 ○ よろしいか。 ○ 〈なし〉
	○ それでは、一応そういった狙いをもってやっていって、岡山市としてはいろいろな工夫をしながらこれを活用するという実績を積み重ねていると学校にそれが浸透しているということがあるように思うので、まず参加そのものに関しては皆さんのご意見を伺って反対意見はなかったと思うので、参加するということになると思う。 それから、実際に狙いに関してはそれがうまく動くように、さらに工夫をして

<p>全委員 委員長</p>	<p>いただきたい。 それでは、他にご質問、ご意見ないようなので、第2号議案を原案どおり可決してよろしいか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 〈承認〉 ○ それでは、第2号議案は原案どおり可決する。 <p>以上をもって本日予定していた議案の審議は全て終了した。 平成28年1月教育委員会定例会はこれで閉会する。</p>
--------------------	--

傍聴の状況		
報 一	道 般	0名 2名